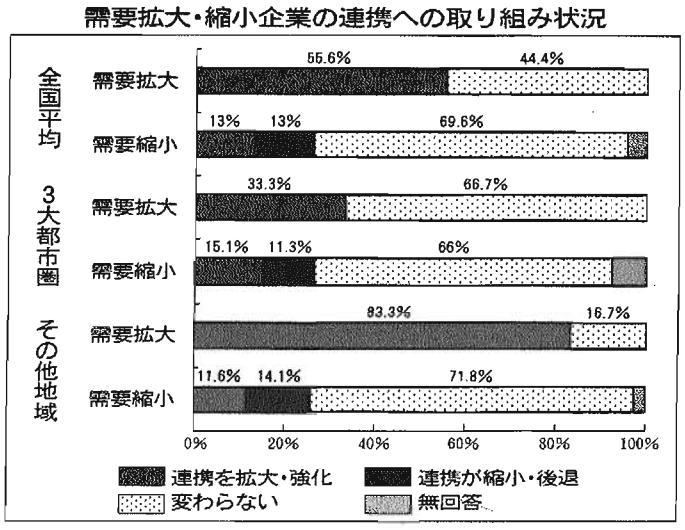
経営改善、連携は有力な選択肢

中小公庫

中小企業金融公庫は、「需要拡大や利益率向上を実現している企業ほど、他企業との連携に取り組んでいる割合が高い」などとする分析リポートをまとめた。特に建設関連企業の場合は、他業種と比べて、こうした傾向が最も強かった。中小公庫では、「下請けや協力業者などとの連携の拡大・強化によって、経営資源・施工能力を拡充し、コストダウンを実現した」結果とみる。その上で、今後中小建設業が経営改善を進める際には、連携への取り組みが「有力な選択肢の一つになる」とアドバイスした。

需要拡大・縮小企業の連携への取り組み状況



昨年6月に行った中小企業動向調査付帯調査の結果をベースに、地域企業との連携が、当該企業の需要の増減や利益率の変動にどのような関連性があるかをまとめた。

調査結果の分析では、有効回答企業約6200社（中小公庫取引先）を5業種に分類。さらに各業種ごとに地元密着型と広域型、3大都市圏とその他地域の企業に分けた。

このうち建設関連企業の結果＝グラフ参照＝を見ると、「需要（売上高・受注高）が拡大」していると答えた地元密着型企業のうち、55・6％が「連携を拡大・強化」していると回答。一方で「需要が縮小」している企業では、連携に取り組む企業の割合は13％にとどまった。

複数のエリアで事業を展開する広域型の建設企業でも同様の傾向。利益率との関係を見ても、地元密着型・広域型とも、利益率の上昇している企業で、連携を拡大・強化している割合が高かった。

また、他業種と比べても、建設業ではこうした傾向が特に目立つ結果となった。中小公庫の担当者は、元請けが工事をマネジメントし、施工を協力会社が担当するといった建設生産システムの特性が影響しているのではないかと指摘。

例えば、「能力の高い下請け・協力業者との関係を強化し、一方で建設機械などの固定資産を持たずに経営を身軽にしていく。結果として、経営資源・施工能力の拡充やコストダウンが実現し、他業種以上に受注拡大や採算向上がもたらされた」などと分析する。

このほか、「地元密着型」と「広域型」を比べると、需要拡大・利益率上昇を実現した建設関連企業の中でも、「地元密着型」ほど連携に取り組む割合が高かった。

県表具内装組合連合会青年部

ポスター等作成 知名度アップに

県表具内装組合連合会青年部（宮脇充孝部長）は、組合の地位の確立と知名度を高めようと、「和」をテーマにしたポスターとステッカー＝写真＝を作成、日本の伝統である表具やふすまの普及・啓発に取り組んでいる。

青年部では以前から、「表具やふすまの伝統をアピールするために何か活動を」と鈴木克則氏（㈲鈴木表建装）が考案。早速、部員全員の協力のもと、デザイン関係は宮脇部長が自ら手掛け、製作に取り組んだ。タイトルを「未来に残したい日本の『伝統』と心・技」とし、子どもが親の背中を見ている写真は、2代目、3代目、4代目と受け継いでほしいという意味を込めた。

宮脇部長は「会員の皆さんにはステッカーやポスターを店に張り、内側からアピールして、住宅などの洋風化が進む中、和を残していくために組合員一人ひとりが自覚を持って、表具やふすまの大切さを伝えていきたい」と語った。

鹿児島県
表具内装組合連合会
＜加盟店＞

県、飯牟礼工区現場見学会

21日に伊集院町で

県は21日午後2時30分から、伊集院町飯牟礼地区の現地で県道伊集院日吉線（飯牟礼工区）の現場見学会を開く。今回の見学会は17年度末で計画区間を全線供用に向け事業を推進しており、現在工事中の現場を地元の人に見学してもらい、土木工事に親しんでもらうとともに公共事業のイメージアップを図るため実施する。

出水共同高等職業訓練校

1・2級土木施工受講者を募集

出水共同高等職業訓練校（吉満重人校長）は27日から30日まで4日間の日程で1・2級土木施工管理技士受験対策講習会を開催する。時間は午後6時から午後10時まで。受講料は5000円（27日に持参のこと）。会場は同校教室。

受講申し込み希望者は24日までFAX0996・84・2451（電話番号も同じ）で連絡すること。

産業廃棄物セミナー

来月10日、国分市で

県は7月10日午後1時30分から、国分市の市民会館で17年度産業廃棄物セミナーを開く。同日は国分市民に産業廃棄物の管理型最終処分場の必要性や安全性などについて理解を深めてもらうために開催する。また、「地域に受け入れられる最終処分場のあり方」や「体験講話～最終処分場・現場からの報告～」の講演などが予定されている。

ミサワホーム鹿児島支店

きょう、安全大会

ミサワホーム九州㈱鹿児島支店はきょう18日午後1時から、鹿児島市の県市町村自治会館で安全大会を開く。

かごしまキャンドルナイト2005

きょう、鹿児島市内全域で

鹿児島青年会議所（岩元修士理事長）主催の「かごしまキャンドルナイト2005」がきょう18日、鹿児島市内全域（県庁、ぴらもーる、県民交流センター、アミュ広場等）で開催される。

都道府県議会制度研究会

20日に中間報告説明会

都道府県議会制度研究会は「いまこそ地方議会の改革を」と題した中間報告を発表したことから中間報告の説明会を20日午後1時から、鹿児島市の県庁議会全員協議会室で開く。

県議会本会議のライブ映像中継

20日からネット配信を試行

県は6月20日開会の17年第2回定例会からインターネットによる県議会本会議のライブ映像中継及び録画映像配信を試行することを発表した。なお、17年第3回定例会から本格実施する。

ジュシカ

23日に安全大会

㈱ジュシカ（池田晃範社長）は23日午後4時から、鹿児島市のハートピアかごしまで17年度安全大会を開く。

三和興業

24日に安全研修会

三和興業㈱（古江昭人社長）は24日午後1時30分から、鹿児島市の鹿児島市管工事協同組合で17年度安全研修会を開く。

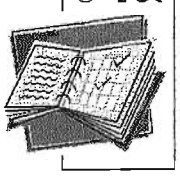
アリマコーポレーション

来月1日、安全大会

㈱アリマコーポレーション（有馬誠社長）の17年度労働安全衛生大会は、7月1日午後2時から鹿児島市の同社で開かれる。

私の健康手帳 第11回 肝臓病③

お酒を飲まなければ大丈夫？



肝臓病には生活習慣病の「脂肪肝」があります。その原因としては「お酒の飲み過ぎ」「肥満」「糖尿病」「高脂血症」が背景にあって、肝臓に脂がたまりやすい状態になっています。

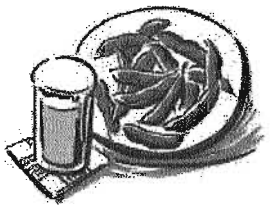
「脂肪肝」は生活習慣を改善して対応できるものですが、大量のアルコール摂取は単なる脂肪肝から肝炎、肝繊維症、肝硬変へと進展することが知られ、肝臓ガンへとつながる可能性もないわけではありません。

人間ドックや検診で肝機能の異常が発見され、二次検診に病院に行く人のほとんどは「脂肪肝」ですが、アルコールを飲まないから脂肪肝でも大丈夫と思うのは早計。注意しなくてはならないのは、ウィルス性肝炎と同じように進行性の脂肪肝があるのです。

飲酒しなくても注意は必要です。

お酒を飲まない人にも発生する肝炎

●非アルコール性肝炎（ナッシュ）
飲酒しないのに肝臓に脂肪がたまり、肝炎を起こし、肝硬変へ進展し、肝臓ガンを引き起こす可能性があります。



非アルコール性の脂肪肝炎「ナッシュ」と呼ばれる病気は、欧米でも特に注目されています。これはお酒を飲まない人の脂肪肝で、特に糖尿病の合併があります。肝硬変、肝臓ガンへ進行していくような病気で、「脂肪肝」で二次検診を受ける方の中には「ナッシュ」の症例も少なからず見受けられますので、単純に脂肪肝だと見過ごしてしまうのも危険です。（次回に続く）

監修　鹿児島共済会南風病院
肝臓内科部長　小森園康二先生